

# 派遣報告書

平成 30 年 3月 16日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員

鳥羽 昌明



次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

## 記

- 1 派遣期間 平成 30 年 3月 12日 (月) から平成 30年 3月 14日 (水) まで
- 2 派遣先 ①岡山県岡山市 一般社団法人 岡山県浄化槽団体協議会  
②徳島県神山町 NPOグリーンバレー  
③徳島県神山町 神山町役場
- 3 視察 (調査) 議員名 由田 隆、伊藤正三、竺原晶子、鳥飼幹男、山口博敬、  
鳥羽昌明
- 4 面会者 ①一般社団法人岡山県浄化槽団体協議会会長 八田富夫様、同事務局長  
岡崎忠義様、岡山県浄化槽施工協同組合事務局長 行友敬一様、岡山県  
環境整備事業協同組合事務局長 高田依信様、公益社団法人倉敷環境検  
査センター専務理事 山砥伸一様、公益財団法人岡山県健康づくり財団  
環境部長 守安秀徳様  
② NPO法人グリーンバレー 事務局長 竹内和啓様  
③一般社団法人神山つなぐ公社代表理事 桴谷学様  
神山町役場総務課主事 馬場達郎様
- 5 派遣目的 ①岡山県浄化槽団体協議会：浄化槽の維持管理の取り組みについて  
②NPO法人グリーンバレー：神山のまちづくりや創造的過疎について  
③神山町役場：光ファイバー網整備によるまちづくりの可能性について
- 6 視察の経過及び感想  
① 【視察理由】汚水や生活排水を浄化・放流する装置であり、主に下水道未  
整備地域に多く設置されている浄化槽には法律により様々な適正管理の  
為の義務が課せられているが、その一つである法定検査受検率の本市の現  
状は58.2%と低調。そこで同90%を超える岡山市の先進事例を学ぶことと  
した。過去2度に渡り定例議会一般質問で鳥飼議員が取り上げたこの問題を  
現地視察により更に研究する。  
【要旨】浄化槽所有者 (設置している各世帯など) は上記法定検査の他に  
も保守点検および清掃も義務として課せられているが本市の実施率はそ  
れぞれ97.2% (保守点検) ・59.2% (清掃) と項目間の大きな開きも課題と  
なっており、その要因として所有者の制度理解不足・費用面・行政と業者

間の連携不足などが指摘されている。過去同様の課題を抱えていた岡山市はその対策として、浄化槽メーカー・工事施工業者・清掃業者・検査機関など関係団体を束ねる団体協議会を発足させることで一体となった活動を行い、それら強い連携の下で法定検査の完全実施に取り組んできた。さらに浄化槽所有者との間で保守点検・清掃・検査の一括契約方式を採用しているため本市のように各項目でのバラつきが発生することもないとのことであった。

【所感】円滑な維持管理の為には浄化槽所有者の理解と負担軽減がポイントでありそれらを一体的にサポートする体制づくりが重要であることを学んだ。岡山方式と呼ばれ高い評価を得ているこの方式を参考に本市における可能性について引き続き研究していく。

- ② 【視察理由】 少子高齢化対策のまちづくりにおける民間（NPO法人）の果たす役割について先進事例を学ぶ。

【要旨】 同法人は過疎化が進む神山町で、国際交流・芸術家の招聘・企業誘致支援・人材育成事業などの様々な取り組みを担う。「創造的過疎」とは同代表大南氏による造語で「過疎化の現状を受け入れ農林業のみに頼らない持続可能な地域を目指す」というもの。例えば、アーティスト招聘事業は彼らの移住や多くの作品を町に誕生させることとなったがきっかけは町に観光資源や美術館がないことから始めたものだった。また町に若者の働き口がなかったことも町全域への光ファイバー網整備やIT企業誘致などの原動力となった。同法人は「できない理由より出来る方法を」「とにかく始める」の方針のもとこれまで様々な取り組みに挑戦してきた。現在サテライトオフィス設置や本社移転・新会社設立は計16社、40名以上の新規雇用を創出。また人材育成事業「神山塾」に参加した計77名中約半数が移住し、進出企業への就職10名、婚活カップル10組が誕生した。

【所感】 柔軟な発想と行政との適度な距離間を保てるのが民間の強みと感じた。今後のまちづくりを考える上でインフラのハード面とこれら民間事業者などソフト面はセットで構築すべきと痛感した。それを誰が担うのか、神山町では地元出身者の熱意とそこから始まる人との縁で行ってきた（同法人代表大南氏は地元神山町出身であり数々の空き家をオフィスにリノベーションした建築家も徳島県出身。同町への進出第1号となった企業の社長とこの建築家は大学同期であり、さらに大南氏ともアメリカでの留学先が同じであった。同法人ではこのような人の輪の力をヒトノミクスと呼ぶ）。倉吉にも大きな可能性があること感じる有益な事例であった。

- ③ 【視察理由】 深刻な過疎化に悩む神山町は国の補助金を活用した光ファイバー網敷設事業により企業誘致・移住促進・空き家問題など様々な課題を改善。光ファイバー未整備地区の多い倉吉市においてそれら通信インフラ整備によるまちづくりの可能性について調査することとした。

【要旨】 神山町は総面積の85%が森林に囲まれた人口5,300人・65歳以上の高齢化率49%の町（同倉吉31.6%）。2011年の地上アナログ放送停波を前に難視聴対策として町全域への光ファイバーによるケーブルテレビ網を構築。これにより超高速インターネット利用も可能となり、社員の働き方改革や災害時のリスク分散を目的としたIT企業のサテライトオフィス進出が相次いだ。その結果、若者の移住→レストランや宿泊施設などサービス業の開業→それらに食材を納入する農業従事者の誕生など改革の本丸である農業振興にもつながる好循環が生まれた。またこれらは空き家や空き商店を改築していることから空き家対策・商店街再生へもつながっている。現

在、再利用可能な空き家が不足していることから子育て世帯を対象にした町営の集合住宅を新たに建設中。

【所感】現地へは徳島駅からバスで1時間、こんなところまで本当に光ファイバーが全戸通っているのかと思う山間地域であった。ご説明下さった杉谷氏へ、光ファイバー整備事業費の元は取れたか？と尋ねたところ「採算はとれていないかもしれないが町に人がいることが重要。人がいなければ町はなくなる。今の自分の仕事も生活もなかつただろう」との言葉が印象的であった。本視察により、事業概要・財源内訳・業者選定・敷設後の事業運営についてなど多くを学べた。光ファイバー網末整備である関金地区の今後の振興策を考える上で大いに参考になった。

## 7 添付書類

(1) 視察の様子の写真

---

(2) 面会者名刺一覧

---

(3) 視察先提供資料

---

要した経費： 6人合計 339,180円